ISSN 0912-6724

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION
日 本 教 育 情 報 学 会　　NO.１９９　２０２６.１０.２０

〒582-8582　大阪府柏原市旭ケ丘４丁目 698−1
大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室
E-mail：jsei@jsei.jp　　HP：http://jsei.jp/home/

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　第４２回定時総会報告　＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2026 年 8 月 29 日（土）鳴門教育大学にて、日本教育情報学会第 42 回定時総会（オンライン形式併用）が開催されました。

正会員 467 名のうち 215 名の出席があり（委任状による出席者 119 名を含む）、定款 27 条により総会は成立し、安達一寿会長を議長として総会を開会いたしました。

【提案された議案】　（Newsletter No.198 をご参照ください。）

第 1 号議案　2025 年度事業報告及び収支決算の件
第 2 号議案　2026 年度事業計画及び予算案の件
第 3 号議案　役員選任の件

第 1 号議案は、原案通り承認されました。
第 2 号議案は、原案通り承認されました。
第 3 号議案は、原案通り承認されました。

＊＊＊＊＊＊ 日本教育情報学会第 42 回年会開催報告 ＊＊＊＊＊＊

第 42 回年会実行委員会委員長
阪東　哲也（鳴門教育大学）

日本教育情報学会第 42 回年会は、2026 年 8 月 29 日（土）・30 日（日）の 2 日間にわたり、鳴門教育大学において開催されました。本年会では「未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス」を統一テーマとして掲げ、生成 AI の普及やデジタル学習基盤の整備など、急速に変化する教育のデジタル環境と、その先にある教育の構造的転換をめぐり、さまざまな視点から研究発表や議論が行われました。

こうした変化の中で、技術の導入や効率化にとどまらず、人の学びとの関係をどのよ

うに捉えるかが問われています。本年会では、「レゾナンス（共鳴）」という言葉に、理論と実践、研究と教育、技術と人間など、異なる立場や経験、方法が響き合い、新たな知の流れが生まれることへの期待を込めました。潮が出会う鳴門の地を舞台に、教育の未来を見据え、次の航路を描くための議論が交わされました。

初日の基調講演では、梅津正美先生（鳴門教育大学 理事・副学長）をお迎えし、「『学校 Ver.3.0』時代の教師像と教員養成教育の刷新―カリキュラム・教育 DX・学習環境の一体的改革による学びの再構築―」と題してご講演をいただきました。鳴門教育大学の取組をもとに、主体的に学び続ける教師の育成と、それを支える教員養成教育の在り方についてお話しいただきました。

続いて行われたシンポジウム「未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス」では、藤原伸彦氏（鳴門教育大学 教授）、田中茂道氏（城陽市立寺田西小学校 教諭）、カーロ・シャーリン氏（鳴門教育大学 URA）、小熊良一氏（群馬大学 准教授）をパネリストに迎えました。長井映雄氏（鳴門教育大学 准教授）のコーディネートのもと、教員養成、学校での教育実践、国際的な視点からの教員研修、初等中等教育における情報教育について話題提供が行われ、人の学びとデジタル技術の関係をめぐって意見が交わされました。

課題研究では、ICT 活用研究会、「AI と教育」研究会、教育資料研究会、教育技術研究会、グローバル教育研究会、特別支援教育 AT 研究会、プログラミング教育研究会、IR 活用研究会の 8 つの研究会による発表が行われました。一般研究では、「教材開発」「教育実践」「教科教育・教育方法」「情報教育」「情報教育・学習評価」の各セッションに加え、オンラインのセッションも設けられ、幅広い教育段階・研究領域にわたる研究成果が報告されました。発表内容には、対面での活動とデジタル技術の組合せ、学習過程の記録を支援や評価に生かす試み、機関や世代を越えた連携など、異なる方法や主体を結び付けながら、学習環境や支援の在り方を検討する研究も見られました。

今回の年会にはおよそ 150 名が参加し、研究発表や質疑応答、懇親会などを通じて交流が行われました。また、会場では協賛企業による展示も行われました。開催に当たっては、徳島県教育委員会および鳴門市教育委員会の後援、共催校である鳴門教育大学ならびに附属学校園の関係者の皆様からご支援・ご協力を賜りました。年会の準備と運営にご尽力いただいた年会実行委員会、年会企画委員会、各研究会、学会運営本部の皆様、ならびにご協賛・ご協力をいただいた関係各位に、心より厚く御礼申し上げます。

本年会は、学びとデジタルの「レゾナンス」を手掛かりに、さまざまな立場から教育の現状と今後について考える 2 日間となりました。鳴門の地で交わされた議論や交流が、それぞれの教育・研究の場における次の実践や研究につながっていくことを願っております。ご参加・ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げるとともに、次年度の第 43 回年会で再びお会いできますことを、実行委員一同、心より楽しみにしております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　お知らせ　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆年会費納入のお願い

2026 年度・過年度年会費について、納入がお済みでない方には、順次メール連絡、自宅・勤務先に電話連絡、登録されています住所へ郵送連絡をしております。至急、ご確認していただき、お手続をお願いいたします。

お支払いいただいた際の振込金受領書は大切に保管してください。その他、会費お支払い等についてご不明な点のある方は、事務局までお問い合わせください。

◆「教育情報研究」投稿募集

日本教育情報学会では年間 3 回の機関誌「教育情報研究」を刊行しております。掲載内容は教育情報に関する原著論文をはじめ下記の論文を掲載しています。会員は自由に投稿ができます。投稿方法等詳細については学会 HP をご参照ください。

○論説・解説　○論文　○実践論文　○研究報告　○その他

◆ご登録の住所・勤務先等の変更について

ご自宅や所属先の住所等に変更がある場合は、学会 HP 内のお問合せ＞会員登録情報変更より変更手続きを必ず行ってください。

日本教育情報学会「第 43 回年会」開催

会　場　：　岐阜女子大学（予定）

開催日　：　8 月下旬（予定）

※詳細は次号掲載予定